

## 委員等意見への対応について（行動計画改定関係）

平成 29 年度第2回協議会(平成 29 年9月 20 日)での主な意見

意見概要	対応
<p><b>「5つの力」について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 五感で感じとる力と体感する力は違う気がする。</li> <li>➤ きちんと説明できればよい。</li> <li>➤ 内容が問題ではなく、言葉として落ち着くかどうか引掛かる。代案がなかなか見つからない。</li> <li>➤ 二文字熟語のシンプルな形で内容を定義する形でまとめたのだと理解した。</li> <li>➤ 違和感はない。</li> </ul>	<p>本計画における「5つの力」を定義し、明示した。</p>
<p><b>構成について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 他の主体への支援に書かれている内容は、元の主体が自分たちの事業・活動としてやっていることなので、もっと大雑把な表現でもよいと思う。</li> <li>➤ 各主体に期待される取組に重きを置き、他の主体への支援については無理して書かなくてもいいのではないか。</li> <li>➤ ある主体自身が果たす役割と、各主体に対して働きかける役割とがある。セットで逆に書くだけなのかもしれない。</li> </ul>	<p>支援については、元の主体が自分たちの事業・活動として実施していることを見方を変えて記述することになるため削除し、全体として読みやすいものとした。</p>

意見概要	対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 一人の個人が、社会や家庭や学校といったフィールドで「取組」を通して学びながら、力を育んでいくというストーリーになっている。それとは別に特出しして書かれている「世代」や「連携・協働」といったことを、どうつなぎ合わせて仕組みにしていけば、全てのライフステージで学びの機会を作っていけるか、それぞれのフィールドで世代間をつなげていけるかを記述してもよい。</li> <li>➤ 工夫点の記述について、全体の中での位置づけが分かるようにしたい。各主体の取組の中で書いてあることを、工夫点のところで特記して書くのか、それとも、「取組」と「仕組み」というように分けるのか。</li> <li>➤ 「行動につなげるための環境学習等を効果的に実施するための工夫点」は非常にユニークな記述であり、だからこそこだわらなければならないところ。各主体の役割の工夫点だけを記述するのであればこのままで良いが、全体的な仕組みや、学びを行動につなげるための工夫点にするならば、もう少し追記が必要。</li> <li>➤ 取組を進めるときには、誰かがやれといっても動かず、主体・コーディネートする人が誰なのかを決めると一番動く。誰にやらせるかということではなくて、誰が仕掛けるかということ。</li> <li>➤ 誰かが手を挙げた時に、「この指とまれ」に対して、それを形にするのを支援するような仕組み、言い出した人を応援する仕組みが大切。</li> <li>➤ それぞれの地域の特性もあるが、行政、学校、地域が集まった時に、こんなことやると面白いという、仕掛けを創り出すような仕組みがどこかに埋まっていると面白い。</li> </ul>	<p>家庭などのフィールドで世代間のつなぎを記載するとともに、世代間の連携・協働で総合的に記載。</p> <p>工夫点の記述は、冒頭などで位置づけを示すとともに、各主体の取組の中で各々記載。</p> <p>各主体に期待される主な取組とその取組に対する県の推進する主な施策を記載（現計画と同じ）し、各主体が取組を実施する際の工夫点を各々記載して、より効果的な取組を促すようにした。</p>

意見概要	対応
<p><b>「地域コミュニティ」について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 地域コミュニティが入ったのは、子どもたちが活動、実践をする場の位置づけとして意味がある。</li> <li>➤ 協働や世代間の連携を考えた時、地域コミュニティは外せない場。教育環境の充実、地域の教育力の向上や地域の活性化、関わった地域の方の生きがい、やりがいにつながっていく。</li> <li>➤ 幼小中高をつなぐことを地域コミュニティに期待するのは難しいのではないか。できれば理想だが。</li> <li>➤ 特に、小中と高とをつなぐのが難しい。私立は行政からのアプローチがない。</li> <li>➤ 各学校が独自に、子ども会、地域の団体、老人会等とそれぞれとつながって活動をしていることが多いが、地域のコミュニティが間をつなぐ機会を提供しているケースもある。</li> <li>➤ 地域コミュニティが幼小中高を超え、学区を超えてつなぐ役割を持つことができる機能を持つという記述をすることは、愛知らしさとなりうる。</li> <li>➤ 誰がどう学校間をつなぐことができるかを書かなければ、どうやって動かしていくのか分からない。</li> <li>➤ 何が地域コミュニティなのか。人によって捉え方が変わるので、はっきりさせなければならない。</li> <li>➤ 町内会や自治会などの「人の集まり」を指すのか、公民館や図書館などの「場所」を指すのかで、展開や活動の仕方が大きく変わる。</li> <li>➤ 「地域コミュニティ」を町内会や自治会などの「人の集まり」と捉える方が、家庭向けに話しやすい。</li> <li>➤ 地域コミュニティは変化していく。小さい単位のものもある。</li> <li>➤ 地域コミュニティの捉え方を考えることが、誰が主体となって取り組むかということにつながる。地域での人と人との関わり合いが非常に希薄になってきている中、地域コミュニティが新たな役割にどこまで関われるか。負担となるような深さを求められない関わり方についての研究が必要。</li> </ul>	<p>工夫点の記述において、子どもたちの活動、実践をする場や世代間の連携の具体例を記載する。</p> <p>場や空間の広がり意識しながら、それぞれの取組事例や施策を記述していくことで、地域コミュニティでできることを示唆していく。</p> <p>地域コミュニティの意欲を応援するため、やると自分たちにプラスに働くという観点から、地域コミュニティが動きやすいような記述をしていく。</p>

意見概要	対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 環境に特化したものではなく、地域の祭などコミュニティで何かをやるのが環境につながることを皆さんに学んでもらえれば良い。</li> <li>➤ 地域はとても広く、地域自身も持っている資源や人材を活用してできることをすれば良い。</li> <li>➤ 地域コミュニティに期待される取組の中に、「世代間の学び合いを意識、または重視した環境学習の推進」というような文言があるとよい。</li> </ul>	<p>地域コミュニティが既に持っている人材や資源、既存の取組、ネットワークなどを活かすことで、環境学習等に取り組めることという記述をしていく。</p> <p>あらゆる世代の関わりによるメリットを記述することで、世代間の学び合いを意識または重視することを促していく。</p>
<p><b>学校に期待される取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 山とまちの学校の連携、中山間地域とまちの学校の連携というような学び合い、環境教育の相互の連携ということがどこかに入っても良い。「他の学校や」といった文言や、「学校間の」などの学校同士の学びについても書かれると良い</li> </ul>	<p>今後検討</p>
<p><b>行政に期待される取組について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 環境学習等を行う各主体への行政による支援について、「情報収集・提供、教材の貸与、表彰制度など」といった細かい表現は不要ではないか。</li> </ul>	<p>工夫点の中で示唆する形とする。</p>
<p><b>計画の推進・評価等について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 学びが行動につながっているかをどのような手法で評価し、可視化し、県民に知らせるのかを次回議論したい。</li> <li>➤ 県全体としてこの場が担う役割もあるが、市町村それぞれが環境学習の計画を立て進行管理を行う組織もっているため、小学校区、中学校区で取り組むことは、市町村の進行管理にゆだねるべきかもしれない。この場で全ての進行管理を行うことはとても無理だが、県全体の進行管理と、市町村での進行管理を意識した上で、次回議論したい。</li> </ul>	<p>今後検討</p>

